

HONMOKU TIMES



Photo by amano studio

honmoku-art.jp



速報!

本牧アートプロジェクト2015 開催決定!!

2015年 12月12日・13日

Photo by amano studio

インタビュー

アートを翻訳する Interview

大島中学校コミュニティハウス・館長 大久保箇子さん

町内会のおじさんや、学校帰りの中学生、子育て中のお母さん……まちの憩いの場、大島中学校コミュニティハウスの大久保箇子さんにお話を伺いました。いつも明るく笑顔でみんなを迎える大久保さんの、本牧アートプロジェクトへの思い、そして期待とは？

——昨年の本牧アートプロジェクト2014では、『演劇クエスト』に「アイテムを授ける人」として出演していただきましたね。

を知っていると行きたくりますよね。でも本牧の若いお母さんたちに聞くとまだ知らなかったりする。町にいる人たちが手を組んで、お互いにいいことをしていけば、町も元気になるのかなって気がするんですけど。

——アートの翻訳！「アート・トランスレーター（アートの翻訳者）」って呼んでもいいですか？

えっ(笑)。まあ「中継点」みたいなものよね。もちろん私たちの施設が協力できることがあればいいです。

るゆるじゃないですか(笑)。そういうやわらかい時に何かに出会って面白いと思ったら突っ走れるんだけど……。中学生に対してはまずはこういう場所が居場所になるだけでもいいかなって最近では思ってます。

——アートを本牧で展開することについて、どう思いますか？

昔はアートなんて興味なかったんですよ。でも、わけがわからないと思っていたのが、最近はずごく面白くて(笑)。だけどアートってものすごく抽象的じゃないですか。それが「メリーゴーランドが来るんだって」とか、「映画館がまたひらくよ」とか具体的な話になると耳を傾けられる。そうやってアートの内容を翻訳していくのが私たちの仕事かなと思います。

——コミュニティハウスには、若い中高生も来ますよね。今年のアートプロジェクトは、ティーンたちにも届くものになりたいんです。

高校生になると将来を意識してるけど、中学生くらいだと今がよければいい感じで、ゆ



右が大久保箇子さん。左は『演劇クエスト』参加者。

本牧アートプロジェクト2015 ディレクターズ・メッセージ

対話し、遊べる《島》をつくる

藤原ちから

Director Message

今年から、本牧アートプロジェクトのプログラムディレクターになりました。最初の本牧のイメージは、「丘と海に囲まれた、トンネルの向こうの異世界であり、夕陽がとても美しい町」でした。

通いつめてそれなりに馴染んだ今も、この町はなお、いつも新しい気づきを与えてくれます。なぜかという、本牧にいる人たちが魅力的だからです。濃いな……って思う。そしてそれぞれに、熱い想いがあるのを感じます。

本牧には多層な歴史があり、価値観もバックボーンも異なる多様な人たちが住んでいる。それをひとつの色にまとめることは難しいし、そもそもひとつに染まるのは、なんかイヤだ(そんなところにいたくない)。

そこでわたしは本牧アートプロジェクト2015を通して、多様な人たちが多様なま

まに話し、時には一緒に遊べるような、ひとつの《島》をつくってみたいと考えています。もちろん《島》というのは比喩ですが、旧・映画館である「HONMOKU AREA-2」を中心拠点としつつ、様々な人や場所を繋いでいくことはできるはず。

この《島》に参加するアーティストなど詳しいプログラムは秋に発表しますが、現時点ではまず2つの募集をします。

●サポーターグループ ～本牧 TABeLE (タベル)

人々が対話し、遊べる場として、「本牧 TABeLE」を新たに立ち上げます。「HONMOKU AREA-2」ほか、町のあちこちで活動する、当プロジェクトのサポーターグループです。ぜひ気軽に参加してください。

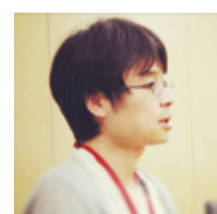
●滞在制作のアーティスト ～本牧 AIR (エア)

民家(個人宅)を間借りして滞在制作するアーティストを公募します。ジャンルは不問。できうるかぎりのサポートはしますが、自分の世界を表現しただけとか、町の人をただ喜ばせたいとかでは物足りないの採用しません。本牧という町でどんなアートが可能か、既存の枠組みに囚われない斬新な発想に期待します。

本牧アートプロジェクト2015のメイン期間は12月12日、13日の2日間ですが、プロジェクト自体はすでにゆっくりと動き始めています。関心のある方はご連絡ください。できれば未来のある若い人たちも、このプロジェクトに乗ってきてほしいと願っています。アートへの偏見はどうか捨ててください。ア

ートは、これまでの歴史に敬意を持ちながらも、新しい人間によってこれからつくられていくものです。それは未知の世界です。好奇心さえあれば微笑んでくれます。

10月にはこの「HONMOKU TIMES」の3号が刊行される予定です。そこでまたお会いしましょう。



ふじわら・ちから

1977年高知市生まれ、横浜在住。批評家、編集者、BricolaQ主宰。12歳で単身上京し、東京で一人暮らしを始める。以後転々とし、出版社勤務の後フリーランスに。武蔵野美術大学広報誌「mauleaf」、世田谷パブリックシアター「キャロマグ」などの編集を担当。現在は演劇批評を中心に様々な記事を執筆しており、共著「演劇最前線」のほか、そのweb版「演劇最前線-ing」も展開中。また遊歩型ツアープロジェクト「演劇クエスト」を国内外の各地で制作し、本牧アートプロジェクト2014では『演劇クエスト・本牧ブルース編』を制作した。

公募!



アーティスト・イン・レジデンス「本牧AIR」大募集!

本牧の街に一定期間滞在し、本牧アートプロジェクト2015で成果発表を行ってくださるアーティスト1名を公募します。演劇、映画、小説、音楽等、ジャンルは不問! 詳細はウェブサイトをご覧ください。(9/10(木) 締切)

<http://honmoku-art.jp/>

本牧TABeLE

Let's Join us!

本牧アートプロジェクトに並走する形で、本牧のまちを盛り上げていく市民協働体(サポーター)がついに立ち上がります。まち歩き、映画づくり、歴史探訪、ライブ、お祭り、フードイベントなどなど何が生まれるかは未知数! なぜなら、みなさんが仕掛け人だからです。人がつどい、遊び、対話する場所をつくりませんか。旧マイカル本牧映画館跡地の「HONMOKU AREA-2」ほか、本牧のまちのあちこちで活動を目論み中。名前は、「TABLE(テーブル)」と「食べる」を掛けあわせて「本牧 TABeLE(タベル)」。

イベント情報は、本牧アートプロジェクトの Facebook ページでチェック!



Photo by amano studio

本牧アートプロジェクト2014の様子



インタビュー

フェンスの向こうから見た本牧

マーク・ソノダ (Mark.Sonoda) さんインタビュー

Interview

60～70年代の本牧とはどのような町だったのか？

今の映画館のある場所 (AREA2) にあったヨコハマ・ハイスクール (YO-HI) の卒業生でもある、マーク・ソノダ (Mark.Sonoda) さんにお話を伺いました。



本牧は戦後、米軍に接収されていた町です。僕は根岸ハイツにいたんですけど。うちの父は将校クラブでミュージシャンのブックキングをしたりしていた、ハワイの日系2世なんです。

——今、映画館のある場所は、昔はハイスクールだったと聞きました。

YO-HI ですね。小学生から18歳まで。ナイター(野球)のできるスタンドもあって。目の前を市電が走ってましたね。スター・ウォーズのマーク・ハミル(ルーク役)が同級生だった。彼がマーク1で、僕がマーク2と呼ばれてたね(笑)。当時、日本だと発売後1年くらい経たないと買えない最新のレコ

ードを、僕がPX(米軍の日用品売り場)で買ってきて。当時レコード1枚が2ドルちょい。それを東京に売りに行くと3000円くらいで買ってもらえた。

——ずっとアメリカン・スクールで育ったんですか？

僕は幼稚園はアメリカン・スクールで、小学校は大鳥小だったの。でも家では英語喋ってたし、7年生でYO-HIに転入した。その後1年はハワイにいて、父の仕事で帰ってきて。それからはずっと本牧にいます。結婚は早かったよ、73年(21歳)かな。本牧は70年代半ばくらいから景色が変わっていった、YO-HIも横須賀基地に移っ

たんですよ。

——本牧のように濃厚な体験のできる町はなかなかないですね……。

本牧っていうのは差別がないんですよ。東京だと「ガイジンがいる！」ってなるでしょう。でも本牧で「ハーフ」っていうと、両方の文化の「いいとこ取り」で育ったんだなってなる。

——小学校やYO-HIでも差別はなかった？

うん、差別もいじめもなかったよ。派閥とかもまるっきりない。白人が黒人をちょっといじめようならことがあったら、人種に関係なくいじめた人をみんなでボコボコにしたからね(笑)。日系人同士でハワイ系か本国系かがちょっとあったくらいかな。

——今の本牧についてどう思います？

なんか寂れちゃったよね。気軽にお酒が飲めて、ダンスができて……っていう雰囲気があるといいんだけど。昔は、若い人たちに対して「これダメ、あれダメ」じゃなくて、「好きにしたら？ だけどこういうことだけは反則だよ」って言ってくれる、粋な遊びを知ってる大人がいたんだよ。

(取材協力：羽鳥千明)



現在の山手警察前からマイカル方向を見た風景。右手奥に見える照明塔はYO-HIのグラウンドのもの



16歳のマークさん



『スターウォーズ』のマーク・ハミルはYO-HIの同級生!



YO-HIの生徒たち



同じくYO-HIの生徒たち

News

本牧の旧・映画館が、「HONMOKU AREA-2」として再稼働

昨年の「本牧アートプロジェクト2014」で特別解放した旧・映画館(旧マイカル松竹シネマズ本牧)が、今夏より新たなアート拠点「HONMOKU AREA-2」として試験的運用を開始します。かつての地域文化の象徴であった映画館が閉場して4年半。中心部にある巨大な空き店舗を開くことで、本牧の街の活性化につながる施設となるように、皆様と一緒に育てていきたいと考えています。そのこけら落としが、7/31-8/2の「パフォーマンス70 HONMOKU」。70年代カルチャーにフィーチャーしたアングラで、サイケで、インディヴィな3日間。客席が撤去された空っぽのシアター空間を現況のままに仮設環境で行います。この期間は、3Fのカフェ&バーもオープンしていますのでどなたでもご利用いただけます。懐かしの映画館をぜひ訪ねてみてください。ご来場、お待ちしております。

HONMOKU AREA-2 今後の予定

- 7月31日[金]—8月2日[日] Dance Dance Dance @ YOKOHAMA 2015 パートナー事業/パフォーマンス70 HONMOKU
- 10月10日[土]—12日[月・祝] Dance Dance Dance @ YOKOHAMA 2015 番外特別プログラム/森山未來&エラ・ホチルドダンス公演『JUDAS, CHRIST WITH SOY ~太宰治「駈込み訴え」より~』
- 12月12日[土]—13日[日] 本牧アートプロジェクト2015

【HONMOKU AREA-2 施設概要】 横浜市中区本牧原14-1 本牧6番街2F
 建築年：1996年/総面積：約2,500m² / 8スクリーン/所有者・管理者：株式会社エスタディオホールディングス
 運営コーディネーター：NPO法人Offsite Dance Project / 運営準備チーム：HOCS(本牧コミュニティ・ステーション)

編集後記

昨年創刊のタブロイド誌「HONMOKU TIMES」、第2号の発行です。ディレクターズメッセージにもあるとおり、「多様な人が多様なままた対話」できる場所をつくるのが、今年のアートプロジェクトの目標です。そこで今号では、本牧に暮らしているお二方にお話を伺いました。大久保節子さんは、大鳥中学校コミュニティハウスを拠点に、地域のためにさまざまな実践を続けていらっしゃる方です。マーク・ソノダさんは、60年代から70年代にかけての熱い本牧エピソードをたくさん語ってくださいました。ほかにも、本牧TABeLE、本牧AIRなどの募集もありますので、すみずみまでチェックしてくださいね。第3号は10月発行予定です。お楽しみに!(落雅季子)

HONMOKU TIMES 02

2015年7月28日発行
 編集長：落雅季子/アートディレクション：阿部太一/編集：藤原ちから
 発行：NPO法人Offsite Dance Project
 〒231-0834 横浜市中区池袋10-1-202
 Tel. 090-6346-5820 / Fax. 045-877-7838 / E-mail: info@offsite-dance.jp
 URL: http://www.offsite-dance.jp